



# 文化部発表会への御来場 ありがとうございました！

3月20日（土）に、今年度瑞浪高等学校文化部発表会が実施されました。演劇部は13：00からの上演でした。ご予約の多い春の休日にもかかわらず、大勢の方にご来場をいただき、部員一同心より感謝いたします。

3月1日に卒業生を送り出し、顧問が一時学校を離れることとなりました。来年度は新しい局面を迎える演劇部。その試金石ともなる今回の公演を振り返ってみようと思います。



## 東濃地区演劇部交流の活発化

12月には、東濃地区の合同練習会が実施されました。中津高校のような押しも押されもせぬ強豪校が君臨する東濃地区ですが、加えて、区の演劇部全体が活発化しており、毎年、東濃地区から県大会を経て中部大会へ進出する学校（県全体で3校）が出ています。それもある学校が常連で進出するのではなく、今年度は多治見工業、昨年度は中津商業、その前は恵那高校と、毎年顔ぶれが変わるのです。それだけ実力のある学校が増えている証拠です。そんな中で、部員同士の交流も盛んになっており、昨年度、中津・恵那・瑞浪の3校で合同練習を実施したところ、参加したいという声があちこちから挙がり、地区全体の合同練習となったのです。多治見工業、中津商業、恵那の各顧問が講師となり、普段はやれない練習に終日汗を流しました。



## 中部大会の衝撃

交流が活発化する中、中部大会に進出した多治見工業を是非応援したいと、多くの部員が名古屋市栄のナディアパークの会場に足を運びました。交通費の関係で、多く



の日程を観られた生徒は少なかったのですが、それでも中部大会のレベルには圧倒されてきました。

中でも、滝高校の「心霊クラブ」は、巨大な舞台装置にこれでもかと仕掛けが組み込まれ、次々に超常現象が起きる展開にびっくり。さらに信じられない数の役者が舞台に登場し、

それが全員計し尽くされたきを見せました。また、愛知高校の「文七元結」は落語を舞台化したものでしたが、落語同様じわじわと客を引き込み、最後は笑いと涙で魅了しました。花魁道中をシルエットで見せた美しさ、幕が閉まって再び開くといきなりそこに実物大の橋が組上がっているスタッフの技術力にはため息が出ました。



## こともあろうに

そうこうするうち、春の公演の演目を決めなくてはならなくなりました。今年度も生徒の脚本創作を試み、面白いものがいくつか出てきたのですが、部員の結論は「既成脚本でいく」。その意志を尊重し、検討させた結果、こともあろうに、決めてきたのが、中部大会で圧倒されてきた滝高校が、2007年に上演した「イ・ストーリー」でした。

早速、脚本集の電話番号に連絡してみると、そこは「滝高校演劇部OB会」の会長さんの電話。数々の名作の使用権管理団体があることに、長い歴史と実力を実感しました。

中部大会で観たように、大人数が舞台上で思い切り動く滝高校の芝居。その動きのいちいちが脚本に指示されているはずもありません。字に書かれたわずかな手がかりから、上演ビデオもないまま、我々の「イ・ストーリー」を探り出す旅に出発したのでした。



## 頑張る部員たち

今回、新しい試みとなったのは、役者とは独立して演出と舞台監督を立てたことです。2年生2人が舞台に立たないことは戦力ダウンではありますが、全体を俯瞰する人物が常にいるという体制は、我々の迎えた舞台作りの新しい局面でした。

舞台監督専任となった男子の手によって、舞台装置は春公演とは思えないほど、充実していきました。背面全体を覆う教室の壁。そこには窓が描かれ、真ん中の柱は



立体的に作られ、紙を突き破って役者が出てくる仕掛けが施されました。教卓も作成、さらに「高い所に上がる」という設定を実現するため、上に乗れる大きな立方体も作りました。これが曲者で、筋交いがなかなかうまく機能せず、試行錯誤の末、必要以上に頑丈でやたらに重く、しかもおそろしくリアルなものが完成しました。ホールまでどうやって運べばいいのか、呆然とする量の装置が出来上がりました。



演出は、練習後1人稽古場に残ってプランを練っていました。生徒が演出を担当するという重圧は大変なものだったと思いますが、思い切って指示を出し、反発にも耐えながら、最後まで舞台をまとめあげました。

部長、副部長も練習をしっかりと運営し、顧問が完全にほったらかした状況に対して、全く愚痴を言ってきませんでした。音響素材を生徒が選ぶことはもはや

定着した感があり、膨大な音源をよく検討して、決定した音に対して顧問がダメを出す必要は全くありませんでした。

## 陰で支えた者達

部員数が増えてきた中で、人間関係を維持することが難しくなっています。7年前、生徒任せにして部を破綻させた苦い経験がありますから、練習に行かない間、よく不安が過ぎります。しかし、練習に来られない者がいるときには上手に代役を立て、作業に参加できない者がいても不平を噴出させずに上演に漕ぎ着けました。部のために多くの時間と労力を費やしても、上演に際して寄せられる賛辞は部に対してのものであって、陰で頑張った者に十分光が当たることはありません。今回、顧問もほとんどそれを見ていません。それでも献身的に支えてくれる部員がいるから、舞台が成立するのです。そうした努力に対し、このページ上でささやかながら感謝を伝えたいと思います。



## 多くの人に支えられての上演

前述のように大がかりな舞台装置を作ったため、運搬が非常に不安でしたが、行きも帰りも、それぞれ保護者の方が軽トラックを出してくださって、作業効率が一気に倍になり、仕込みとバラシの時間が大幅に短縮されました。心より感謝申し上げます。

当日は、多くの生徒、保護者、先生方、他校の演劇部員、OBと、多くの方が駆けつけてくれました。ほとんど観客のいないホールで上演していた頃を思うと、今昔の感があります。三連休の初日、予定を入れたい休日だったと思いますが、本当にありがとうございました。

## 感想用紙から

- ・今の若い人たちに分かってもらいたい話でした。深い話を表現されていて、すごいと思いました。お疲れ様です。良い劇をありがとう！
- ・皆、言葉がはっきりと聞こえ良かったです。また、題材が生徒達の今実際に有りそうな事を取り上げうまくまとまっていた。今後も頑張ってください。楽しかったよ。
- ・声もすごく通っていて、声の掛け合いが見ていてとても楽しかったです。個性が出ていてよかったです。日々たくさん練習しているんだなって感じました。これからも楽しみながら頑張ってください。



- ・普段の学校生活で見せる姿とは全く違う姿を見せるキャストから目が離せませんでした。舞台も作り込んであって、先生が登場するシーンはとても面白く印象的でした。ステージには途切れることのない流れがあって、相当練習されてるんだろうなと思いました。ステキな舞台を見ることができ幸せです。ありがとうございました。
- ・今日の発表に向けて、練習する姿や、いつも頑張るみんなの姿に、自分も元気とエネルギーをもらっています。また観に行くのでこれからもがんばってください。
- ・とてもおもしろかったです。最後の方の孤立してしまう子には本当にいらっとしたけど、その後、泣いてしまうところがすごく感情移入してしまいました。
- ・机の動かし方など、動きに無駄がなく楽しく見られました。最後に先生が出てくるとき、まさかの登場でしたね。音楽だけで台詞なしで椅子の取り合いしているシーンがすごく計算し尽くされている感じがしました。来年の劇も楽しみにしています。

たくさんの感想用紙、ありがとうございました。部員一同、嬉しく読ませていただきました。



## 新入生諸君へ

瑞浪高校演劇部では、一緒に演劇を楽しむ仲間を求めています。役者、スタッフどちらも熱烈歓迎いたします。入学したら、是非、活動をのぞきに來てください。充実した日々をお約束します。

## 上演案内

次回上演は、東濃地区大会、7月27日（金）、28日（土）の予定です。瑞浪総合文化センターにて。よろしければ、足をお運びください。

また、瑞浪高校OB小木曾里美主宰の劇団「えみあ」の第四回公演が、4月25日（日）に予定されています。13：30開場、14：00開演。多治見市まなびパークにて。入場料は基本無料でお気持ちがあれば…とのこと。仕事を持ちながら芝居を作るというのは大変な努力が必要なことです。卒業生の頑張っている姿を是非ご覧ください。